

### 第3章 管理機関の役割

#### 1-1 管理機関における活動実績

##### 実施内容及び日程

実施内容	日 程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会		○										○
コンソーシアム会議			○									○
学校訪問指導 (授業 探究活動 発表会等)	○		○				○	○				○
ネットワーク研修			○				○					
県外先進校視察			○									
高校との事業進捗確認	随 時											

#### 【成果】

運営指導委員会及びコンソーシアム会議をそれぞれ年2回開催し、事業内容について、特に以下の項目の指導・助言を受けた。

- ・指導と評価の一体化を目指すカリキュラム開発
- ・中高連携、高大連携による生徒の資質・能力の育成
- ・県内外の高等学校との連携による教員・生徒の資質・能力の向上

探究活動や発表会（6月、10月）や、県内他校とのネットワーク研修会に参加（6月、10月）し、事業の実施状況を把握した。

ループリックの改善に向けて、生徒や地域の方の関わりや、地域課題探究学習と授業のつながり等について、事業の改善への提案を行った。

先進的な取組等を行っている県外高校を、松浦高校とともに視察し、支援体制についての意見交換を行った。

#### 〔視察先および主な聴取内容〕

○兵庫県立柏原高校（9月21日）

- ・コーディネーターの役割や情報共有について
- ・新学科の設置について 等

#### 【課題】

運営指導委員会およびコンソーシアム会議の運営の更なる充実。

生徒にとってわかりやすいループリック作成の支援。

#### 【次年度への反映】

運営指導委員会やコンソーシアム会議での意見を踏まえ、令和4・5年度の課題を学校とともに整理し、最終年度の取組に反映させる。

令和7年度以降の運営組織・支援体制を早期に検討し、事業終了後の方向性や内容の検討を行う。

ループリックの作成および改善等の取組について、オンラインでの打合せなど、高校と密に連携を行う。

コーディネーターの活動の充実を図るため、他県のコーディネーター設置校と連携し、情報交換を行う。

## 1 - 2 管理機関における事業全体の成果検証、評価

本構想において実現する成果指標は、次の3つである。なお、成果の検証は、生徒へのアンケートおよび生徒のループリック評価により行った。

キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率(%)  
発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合(%)  
育成したい資質・能力に関するループリック評価規準(課題解決能力等)の到達度(5段階)における生徒自己評価の平均値

成果指標：キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率(%)

### ○アンケートの質問内容

まつナビ・プロジェクト等を通して、卒業後や将来のことを『自分ごと』として考える力(キャリア形成力)が高まったと思うか。

### ○結果

地域科学科生徒の実績値：91.3%(令和5年度成果目標値：90%)

### ○評価

- ・キャリア形成力が高まった(「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した地域科学科の生徒は91.3%であり、令和4年度より4.2ポイント上昇した。
- ・地域に根ざした高校との生徒間交流や、カリキュラム・マネジメントのさらなる推進など、取組の充実が必要である。

成果指標：発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合(%)

### ○アンケートの質問内容

あなたの班の地域課題解決型学習のテーマは地域活性化につながると思うか。

### ○結果

地域科学科生徒の実績値：91.3%(令和5年度成果目標値：85%)

### ○評価

- ・現在、地域科学科は仮のテーマ設定中であるが、地域活性化につながると思う(「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した地域科学科の生徒は91.3%であった。
- ・地域科学科の多くの生徒が、松浦市職員、大学教員との協働学習において主体的に活動する姿が見られた。また、商業科との協働により、地域課題解決学習が推進された。

- ・次年度、生徒が設定した研究テーマと地域のリソースのマッチングを図り、地域と連携した取組の充実が必要である。
- ・中高および高大の連携交流により、自分の研究について理解を深めることで、さらに「地域活性化に貢献したい」という気持ちの醸成が必要である。

成果指標：育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準（課題解決能力）の到達度（５段階）における生徒自己評価の平均値

○結果

地域科学科生徒の実績値：２．９９（令和４年度成果目標値：３．５）

○評価

- ・ルーブリック評価規準における目標値の３．５に対して、結果が２．９９であり、目標を０．５１ポイント下回った。
- ・昨年度より実績値は高くなったが、生徒にとってわかりやすく、他者からの評価も取り入れやすいルーブリックへの改善が必要である。

【次年度における管理機関の支援】

生徒にとって分かりやすいルーブリックの作成および改善について、学びアドバイザーとともに指導・助言を行う。

ルーブリックによる指導と評価の一体化を更に推進するため、外部アセスメントによる評価結果の検証の支援を行う。

地域に根ざした高等学校との連携の充実を図るため、関係高校への協力依頼などの支援を行う。

## 第4章 事業検証と次年度に向けて

### 1-1 今年度の目標設定についての検証

#### 目標設定シート

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	目標値(4年度)
<b>(成果目標)</b>						
キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率						単位:%
本事業対象生徒:			85	90	95	85
本事業対象生徒以外:	75	75	80	85	90	80
目標設定の考え方: 令和3年度の卒業生の進学先をもとに算出						
<b>(成果目標)</b>						
発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合						単位:%
本事業対象生徒:			80	85	90	80
本事業対象生徒以外:	70	70	75	80	85	75
目標設定の考え方: 令和3年度学校設定科目、課題探究活動「まっナビ・プロジェクト」の研究プロジェクト10をもとに算出						
<b>(成果目標)</b>						
育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準(課題解決能力等)の到達度(5段階)における生徒自己評価の平均値						単位:ポイント
本事業対象生徒:			3.0	3.5	4.0	3.0
本事業対象生徒以外:			2.8	3.2	3.8	2.8
目標設定の考え方: 令和3年度まっナビ・プロジェクトにおける生徒自己評価の平均値をもとに算出						

#### (1) 令和5年度 計画 における成果指標

生徒個々のキャリアプランを踏まえた、進路希望の実現率(%)

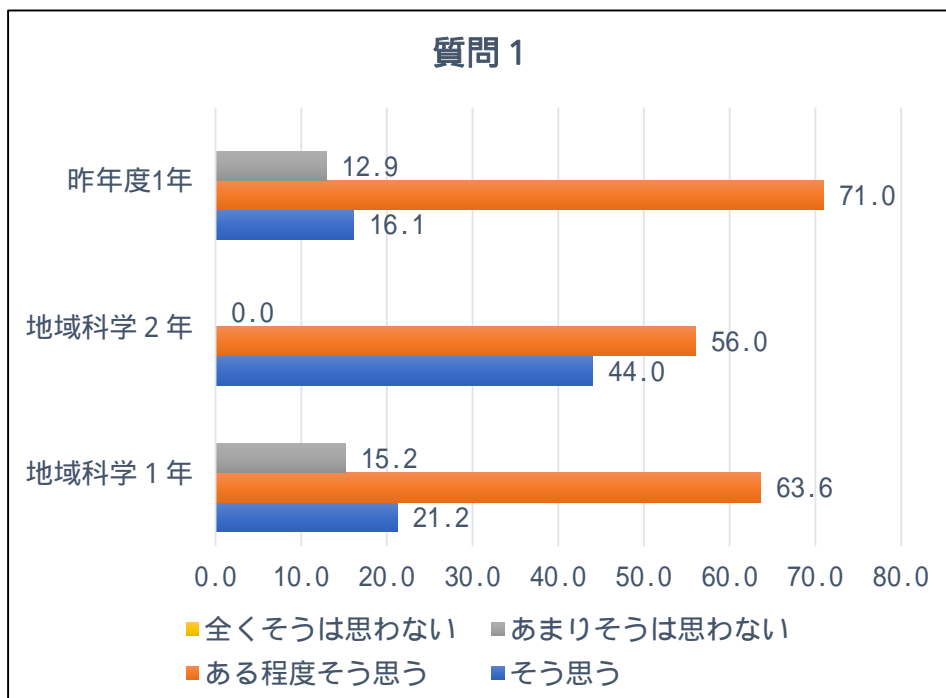
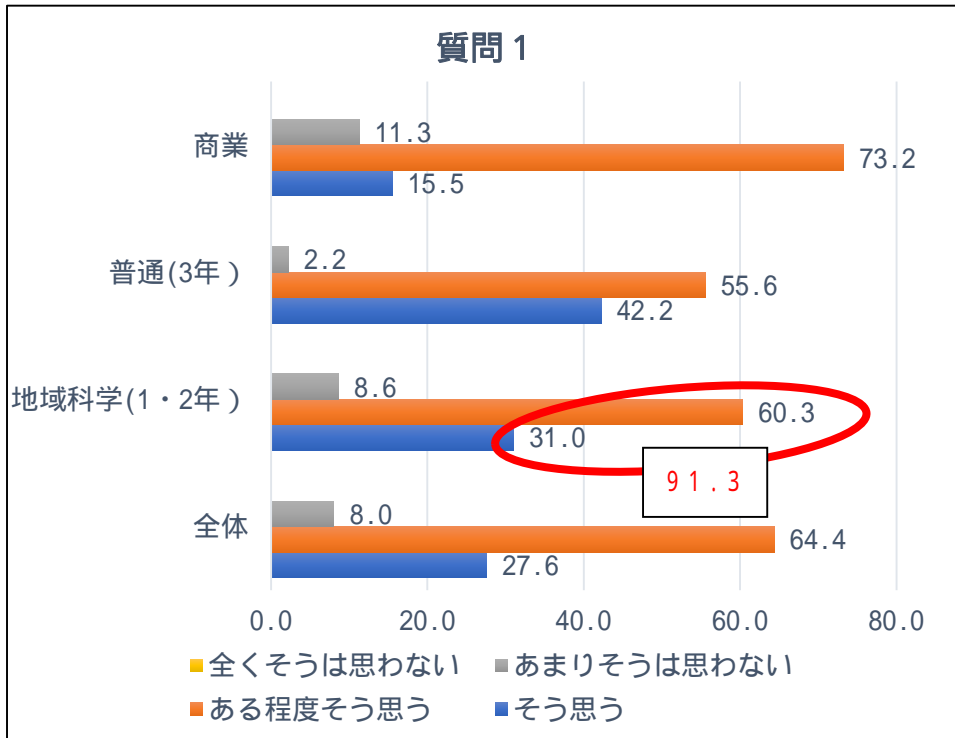
キャリアプラン策定及びその実現にむけたプロセス及び進路実現に関する、ポートフォリオを用いた生徒自己分析を用いて評価する。

#### 【質問内容】

まっナビ・プロジェクト等を通して、卒業後や将来のことを「自分ごと」として考える力(キャリア形成力)が高まったと思うか。

#### 【アンケート結果】

・地域科学科(1,2年)は、91.3%が高まったと回答。今年度目標数値である90%を超えた。



(2) 計画 中高・高大職連携の推進とその効果等の検証に基づく連携・協力体制の在り方を含む改善

令和5年度 計画 における成果指標

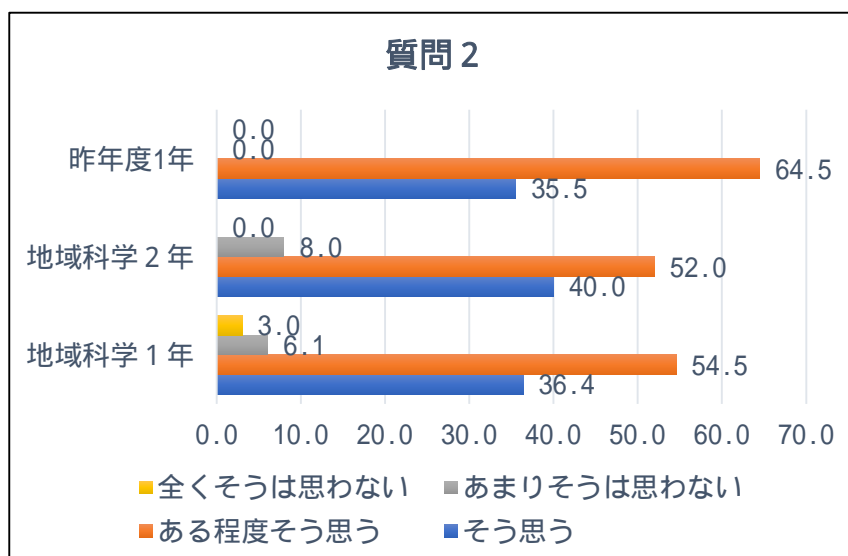
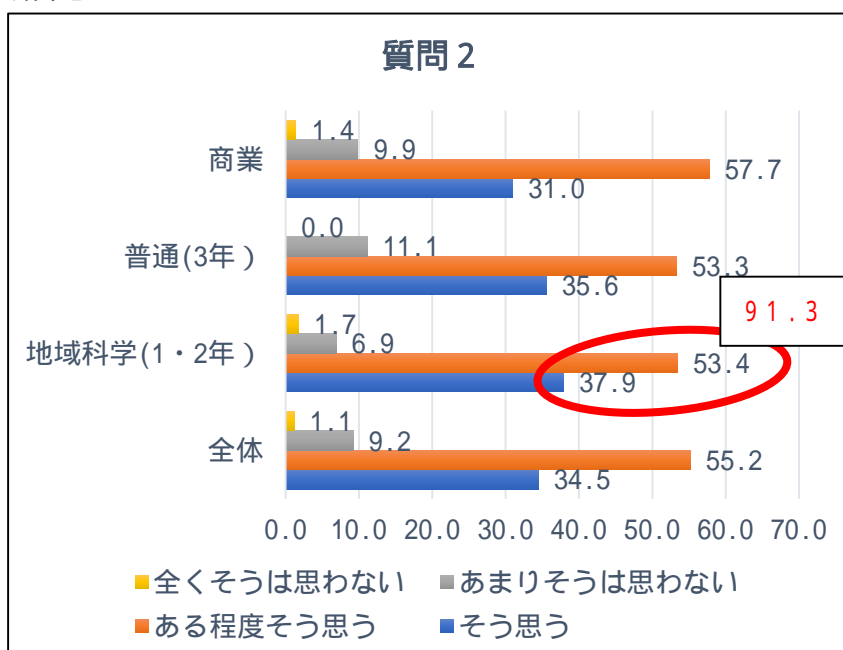
課題研究発表会等において、審査員等から地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合(%)

コンソーシアムと協働した、まつナビ・プロジェクトでの実践を含む探究活動の有効性に関する審査員による審査内容から評価する。

【質問内容】

あなたの班の地域課題解決型学習「まつナビ」もしくは「プレまつナビ」のテーマは地域活性化につながると思うか。

【アンケート結果】



- ・今年度地域科学科（１，２年）の目標数値は、８５％であったが、生徒が回答した数値では、９１．３％であった。また、校内発表会におけるルーブリック評価規準を用いた審査において、審査員が、地域活性化への貢献度が高い（５段階の平均３以上）と判断した、発表班は８３．３％であった。（昨年度は９１．１％であった）

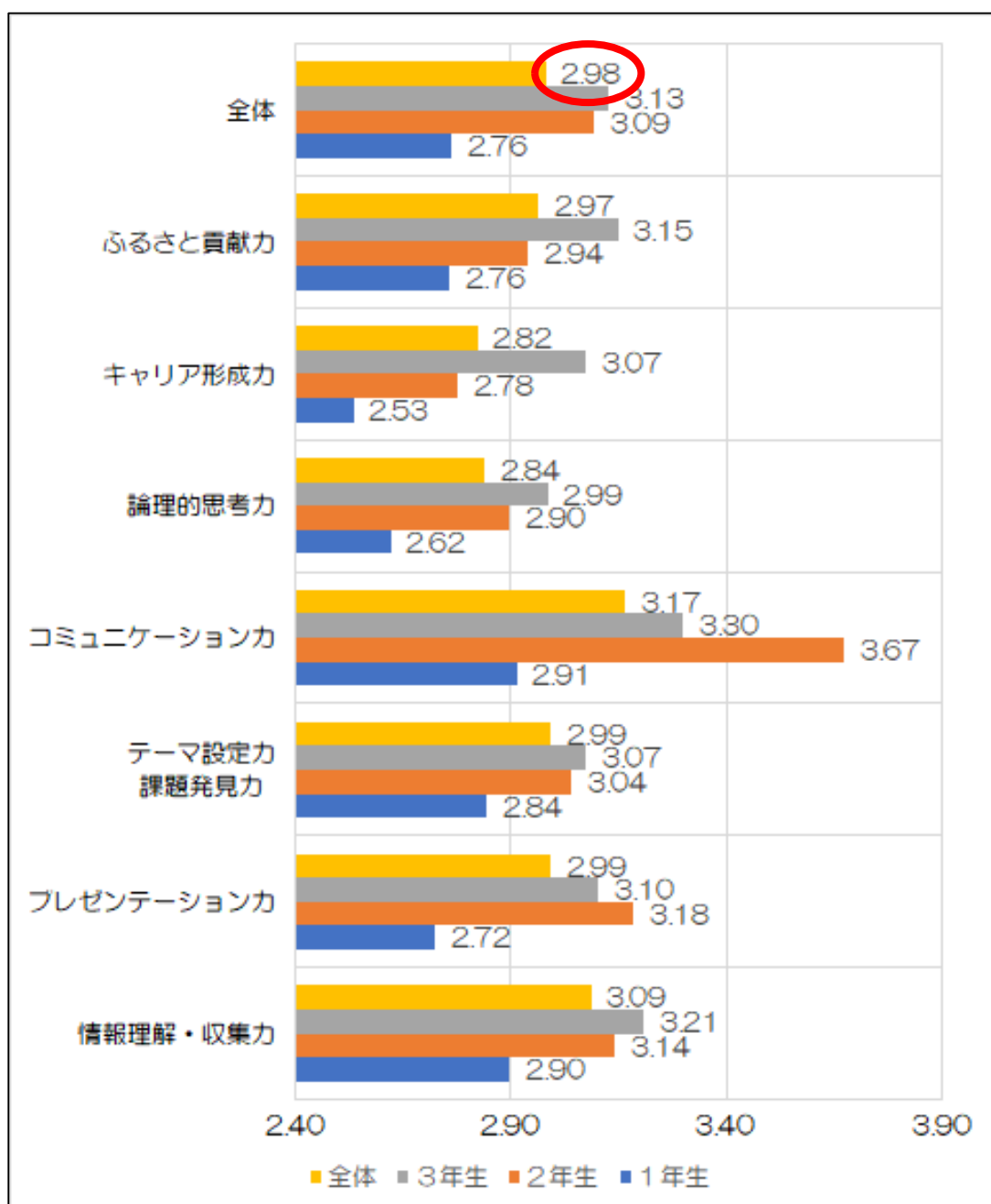
(3) ルーブリックによる評価【実施計画】

評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力等			主体的に学習に取り組む態度	
育成を図る資質能力等	情報理解・収集力	プレゼンテーション力	テーマ設定力課題発見力	コミュニケーション力	論理的思考力	キャリア形成力	ふるさと貢献力
評価規準	入手した情報や知識・技能についてまとめることができるか	パワーポイントやポスターに、見やすさ等内容に工夫が見られ、発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か	課題研究活動を「自分ごと」として捉えたテーマ設定ができているか	地域や班活動で協働する力がついているか	今後の展望（提言・実践）が明確か	課題研究活動と自分の進路がつながっており、その実現に向けて行動できているか	課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとする態度が醸成されているか
段階（基準）							
C	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識については、まとめることができていない。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができていない。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマが設定できていない。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できていない。	課題研究活動の成果と課題を示すことができていない	自分の将来について考えることができていない。	ふるさとに貢献しようとしていない。
B	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめようとしている。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫をしようとしている。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマを設定しようとしている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解しようとしている。	課題研究活動の成果と課題を示そうとしている。	自分の将来を考えようとしている。	課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとしている。
A (ふつう)	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめることができる。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができている。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマが設定できている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の成果と課題を示すことができている。	自分の将来について考えることができる。	課題研究活動が、ふるさとに貢献しようとする態度につながっている。
S	これまでの知識と先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめ、 <u>比較・分類</u> ができている。	パワーポイントやポスター等使って視覚的な工夫を加えることができ、 <u>時間内にかつ原稿をあまり見ずに聞き手を見ながら発表</u> ができている。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた課題研究テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の成果と課題を <u>道すじを立てて表現</u> することができている。	具体的な進路について深く考え、 <u>キャリア形成（進路実現）と結びつけた課題研究活動の計画を立て</u> ている。	課題研究活動とふるさとに貢献しようとする態度が発表会等を通して地域に説明でき、 <u>それが実践活動まで結びつ</u> いている。
SS	これまでの知識と先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た情報や知識をまとめ、 <u>比較・分類</u> した上で要・不要の取捨選択ができている。	パワーポイントやポスター等使って視覚的な工夫を加えることができ、 <u>身振り手振りを加え、時間内にかつ原稿に目を通さずに聞き手を見ながら発表</u> できている。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた <u>実現可能な課題研究</u> テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。 <u>リーダーシップを発揮しながら、協働</u> ができている。	課題研究活動の内容を整理・分析し、成果と課題を道すじを立てた <u>将来の展望を表現</u> することができている。	具体的な進路について深く考え、キャリア形成（進路実現）に向けた計画を立て、 <u>その実現に向けた課題研究活動</u> ができている。	課題研究活動とふるさとに貢献しようとする態度が発表会等を通して地域に説明でき、 <u>何度も実践活動にチャレンジ</u> できている。



### 【アンケート結果】

- ・従来の「難しい専門用語」を生徒や地域にも理解しやすい言葉で示したものの（第1回会議で提示）にブラッシュアップを図った。
- ・成果としては、生徒の声掛けのタイミングがわかるようになった。（例えば、SからAになった生徒には「悩んでいるのか？」と声かけ、BからAになった生徒には、「頑張ったね」と声かけできた。）
- ・今年度の学校平均が2.98、地域科学科では2.99であった。（C=1、B=2、A=3、S=4、SS=5で算出）A=3をいわゆる「ふつう」に設定しており、文科省事業では今年度「3.2（地域科学科は3.5）」を目標としていたので、やや下回った。



	育成を図る資質能力	情報理解・収集力	プレゼンテーション力	テーマ設定力・課題発見力	コミュニケーション力	論理的思考力	キャリア形成力	ふるさと貢献力	全体
	1年生	2.90	2.72	2.84	2.91	2.62	2.53	2.76	2.76
	2年生	3.14	3.18	3.04	3.67	2.90	2.78	2.94	3.09
	3年生	3.21	3.10	3.07	3.30	2.99	3.07	3.15	3.13
	全体	3.09	2.99	2.99	3.17	2.84	2.82	2.97	2.98
1年生	地域科	2.97	2.88	2.97	3.06	2.70	2.58	2.79	2.85
	商業科	2.80	2.52	2.68	2.72	2.52	2.48	2.72	2.63
2年生	地域科	3.28	3.28	3.20	3.36	3.12	2.76	3.16	3.17
	商業科	3.00	3.08	2.88	4.00	2.67	2.79	2.71	3.02
3年生	普通科	3.23	2.98	2.77	2.72	2.59	2.47	3.08	3.23
	商業科	2.95	2.95	3.05	3.09	2.86	2.73	2.86	2.93
全体	地域科	3.10	3.05	3.07	3.19	2.88	2.66	2.95	2.99
	普通科	3.33	3.18	3.09	3.40	3.04	3.24	3.29	3.23
	商業科	2.92	2.83	2.87	3.00	2.68	2.69	2.77	2.82

#### 【令和5年度計画 について】

##### ○令和5年度の成果

今年度(令和5年度)は、昨年度(令和4年度)作成したループリックによる評価に基づき、担当教員と生徒がまっナビ・プロジェクトの評価を行うことができた。

従来のループリックによる評価を長崎大学の藤井先生とともに本校プロジェクトチームでブラッシュアップを図ることができた。(ことばのわかりやすさを重点的に)

地域科学科の2年生は1年生(昨年度)の87.1%から100%に「キャリア形成力が高まった」と回答した。

##### ○令和5年度の課題

進路実現率(将来の目標等)が定まるのは、これからだと思われる。この指標は、地域科学科の目標数値であるが、まだ、本学科の生徒は、1、2年生のみであることを考慮して、キャリア形成力だけでなく、論理的思考力やテーマ設定力等も並行して高めていく。

#### 【令和5年度計画 について】

##### ○令和5年度の成果

中高間交流(志佐中学校)の実施

高大連携交流(県立大学訪問予定、県立大生による伴走)

地域との連携(まつうら高校応援団、松浦中央病院、松浦消防署、松浦商工会議所青年部(YEG)等)

## ○令和5年度の課題

昨年度の「そう思う」「ある程度そう思う」が地域科学科は100%ととても高かったが、今年度の1年生は、90.9%となっている。地域科学科1年生は現在、探究構想中なので、地域活性化に貢献したいという気持ちを100%にできるよう導く。

3年間の活動だけでなく、将来にわたって「地域活性化に貢献したい」という生徒のふるさとを愛する気持ちを醸成していく。

### (4) ポートフォリオの活用状況

松高ポートフォリオ...クラッシー(ベネッセコーポレーション)を利用。

昨年度の反省等から紙ベースの記録から、デジタル記録に変更。

テンプレート名：9月27日校内発表会振り返り  
作成者：〇〇 〇〇先生  
作成日時：2023/09/28 12:14  
利用数：1

設問1：発表会でよかったこと・うまくいったこと  
設問2：発表会までに少し足りなかったこと  
設問3：全体的な感想

### 生徒の記載例から見る成果

例) 9月28日 校内発表会

設問1：発表会でよかったこと・うまくいったこと

回 答：時間が限られており、詳しく話すことができなかったが、自分たちがどうしたいのか伝えることができた。また、スライド作りでは、聞く側が見やすく、興味をもてるようなスライド作りをつくるために班と協力しながら完成させることができた。

設問2：発表会までに少し足りなかったこと

回 答：発表時間が足りずに詳しく説明できなかった。発表練習時間が十分にとることができなかった。

設問3：あなたの感想

回 答：それぞれの班が、自分たちが最大限にできることを行っており、よりよいものになっていたと感じた。これからも活動を進めていく上でそれぞれの班の良いところを参考に悔いのない活動にできるようにしたい。

### 【成果】

- ・担当教員がリアルタイムで生徒の活動状況が把握できた。
- ・生徒の探究活動における「困りごと」に速やかに対応できた。

令和6年度に向けて

- ・活動ごとに記録(入力)をすると膨大なデータ量になるので、定期的に振り返りを行いながら各活動のポイントを集約する時間を確保し、年度末の振り返りが円滑にかつ効率的にできるようにする。

( 5 ) 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング アンケート結果

高校魅力化評価システム分析結果 ( 「三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング」による評価)

今年度、生徒向けを 9 月、教員向けと新たに地域向けを 11 月に実施した。今後この結果をもとに、本校のさまざまな教育活動の改善につなげていく。

**本校の良い面、強み：肯定的回答割合が高い項目**

	項目	項目の内容	今年度	昨年度
1	【主体性に関わる学習環境】	26.自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	93.3%	87.9%
2	【協働性に関わる自己認識】	43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	91.7%	88.3%
3	【協働性に関わる学習活動】	7.グループで協力しながら学習や調べものを行う	91.1%	83.0%
4	【主体性に関わる学習環境】	35.周りの大人は、自分に関わることについて自分で決めることを尊重してくれる	87.8%	84.0%
5	【協働性に関わる学習活動】	8.活動、学習内容について生徒同士で話し合う	87.2%	81.6%
6	【協働性に関わる自己認識】	42.相手の意見を丁寧に聞くことができる	87.2%	84.0%
7	【探究性に関わる学習環境】	24.周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	83.3%	82.5%
8	【社会性に関わる学習環境】	25.地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	83.3%	78.2%
9	【社会性に関わる学習環境】	29.地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	83.3%	80.1%

・探究活動だけでなく、教科学習における協働が身に付き始めている。( 2 , 3 , 5 , 6 )

・地域等に対して生徒の「学びの安心感」が見られる。( 1 , 4 , 7 , 8 , 9 )

**本校の課題：肯定的回答割合が低い項目 ( 昨年度比 )**

	項目	項目の内容	昨年度の課題	今年度	昨年度
10	【社会性に関わる行動】	70.地域社会などでボランティア活動に参加した	○	22.8%	33.5%
11	【社会性に関わる自己認識】	65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい		24.4%	35.0%
12	【探究性に関わる自己認識】	41.複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ		28.9%	39.3%
13	【社会性に関わる学習活動】	16.日本や世界の課題の解決方法について考える		33.3%	43.2%
14	【社会性に関わる自己認識】	63.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う		34.4%	37.9%
15	【社会性に関わる自己認識】	57.私に関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない	○	35.0%	34.5%
16	【社会性に関わる行動】	69.いま住んでいる地域の行事に参加した		36.7%	44.7%
17	【社会性に関わるウェルビーイング】	89.日本の将来は明るいと思う		37.8%	47.1%
18	【主体性に関わる学習活動】	6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	○	38.3%	35.0%
19	【社会性に関わる学習環境】	34.地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	○	42.8%	45.1%

・グローバルな視点での学びが弱い。( 11 , 13 , 15 , 17 )

・地域行事への参加やボランティア活動への参加する機会が少ない。( 10 , 16 )

本校の課題：他地域との差が大きな項目

	項目	項目の内容	昨年度 の課題	全国と の差	今年度	昨年度
20	【主体性に関わる自己認識】	39.現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる		-21.2	<b>51.7%</b>	60.7%
21	【学習・その他】	90.この学校を中学生におすすりできる		-21.1	57.8%	57.3%
22	【探究性に関わる自己認識】	41.複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ		-19.8	<b>28.9%</b>	39.3%
23	【社会性に関わる自己認識】	65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい		-19.3	<b>24.4%</b>	35.0%
24	【探究性に関わる学習活動】	10.自分の考えを文章や図表にまとめる	○	-16.8	49.4%	49.5%
25	【社会性に関わるウェルビーイング】	88.この地域を、将来暮らす場所としておすすりできる		-16.6	<b>51.7%</b>	55.3%
26	【社会性に関わる学習活動】	16.日本や世界の課題の解決方法について考える	○	-16.5	<b>33.3%</b>	43.2%
27	【協働性に関わる行動】	73.友人などから、意見やアドバイスを求められた	○	-14.9	<b>57.2%</b>	63.6%
28	【探究性に関わる自己認識】	67.学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている		-14.6	<b>66.1%</b>	67.5%
29	【社会性に関わる自己認識】	57.私に関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない		-14.5	35.0%	34.4%
30	【主体性に関わる自己認識】	37.うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む		-13.9	<b>62.8%</b>	70.4%
31	【探究性に関わる自己認識】	54.一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする		-13.5	67.2%	67.5%
32	【協働性に関わる行動】	72.自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	○	-12.3	58.3%	58.7%
33	【探究性に関わる自己認識】	46.勉強したものを実際に応用してみる		-11.8	55.6%	55.1%
34	【探究性に関わる自己認識】	45.情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる		-11.2	71.1%	63.1%

- ・まつナビや教科の学びを結び付けて考える力が弱い。(20、24、28、31、33、34)
- ・アドバイスをしたり、受けたりするコミュニケーション力が弱い。(27、30)
- ・自分の考えをまとめる力(論理的思考力)が弱い。(20、22、24、31、32、33)
- ・探究性の弱さが見られる。(22、25、28、31、33、34)

生徒向けアンケート結果

	内容	2022 年度	2023 年度	前年比
【探究性に関わる学習活動】	10.自分の考えを文章や図表にまとめる	49.5%	49.4%	-0.1
【探究性に関わる学習活動】	11.話し合った内容をまとめる	69.4%	-	
【探究性に関わる学習活動】	12.活動、学習のまとめを発表する	65.0%	61.7%	-3.3
【協働性に関わる学習活動】	13.生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	63.6%	58.3%	<b>-5.3</b>
【社会性に関わる学習活動】	14.地域の魅力や資源について考える	71.4%	-	
【社会性に関わる学習活動】	15.地域の課題の解決方法について考える	79.6%	76.1%	-3.5
【社会性に関わる学習活動】	16.日本や世界の課題の解決方法について考える	43.2%	33.3%	<b>-9.9</b>
【探究性に関わる学習環境】	17.本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	77.2%	78.9%	1.7
【探究性に関わる学習環境】	18.将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	74.8%	77.8%	3.0
【社会性に関わる学習環境】	19.地域から大切にされている雰囲気を感じる	81.1%	-	
【主体性に関わる学習環境】	20.失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	73.8%	78.9%	<b>5.1</b>
【主体性に関わる学習環境】	21.挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	87.9%	-	
【協働性に関わる学習環境】	22.人と違うことが尊重される雰囲気がある	71.8%	73.3%	1.5
【協働性に関わる学習環境】	23.ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	75.7%	-	
【探究性に関わる学習環境】	24.周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	82.5%	83.3%	0.8
【社会性に関わる学習環境】	25.地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	78.2%	83.3%	<b>5.1</b>
【主体性に関わる学習環境】	26.自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	87.9%	93.3%	<b>5.4</b>
【協働性に関わる学習環境】	27.自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	75.7%	-	
【協働性に関わる学習環境】	28.立場や役割を超えて協働する機会がある	68.4%	72.2%	3.8
【社会性に関わる学習環境】	29.地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	80.1%	83.3%	3.2
【協働性に関わる学習環境】	30.人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	62.6%	56.1%	<b>-6.5</b>
【探究性に関わる学習環境】	31.お互いに問いかけあう機会がある	64.6%	-	
【社会性に関わる学習環境】	32.自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	63.6%	60.6%	-3.0
【主体性に関わる学習環境】	33.目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	71.8%	-	
【社会性に関わる学習環境】	34.地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	45.1%	42.8%	-2.3
【主体性に関わる学習環境】	35.周りの大人は、自分に関わることについて自分で決めることを尊重してくれる	84.0%	87.8%	3.8
【探究性に関わる学習環境】	36.生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある	63.6%	65.6%	2.0
【主体性に関わる自己認識】	37.うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	70.4%	62.8%	<b>-7.6</b>
【探究性に関わる自己認識】	38.家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	61.7%	59.4%	-2.3
【主体性に関わる自己認識】	39.現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	60.7%	51.7%	<b>-9.0</b>
【主体性に関わる自己認識】	40.目標を設定し、確実に行動することができる	58.3%	51.1%	<b>-7.2</b>
【探究性に関わる自己認識】	41.複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	39.3%	28.9%	<b>-10.4</b>
【協働性に関わる自己認識】	42.相手の意見を丁寧に聞くことができる	84.0%	87.2%	3.2
【協働性に関わる自己認識】	43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	88.3%	91.7%	3.4

【協働性に関わる自己認識】	44.共同作業だと、自分の力が発揮できる	62.6%	63.9%	1.3
【探究性に関わる自己認識】	45.情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる	63.1%	71.1%	<b>8.0</b>
【探究性に関わる自己認識】	46.勉強したものを実際に応用してみる	51.5%	55.6%	4.1
【主体性に関わる自己認識】	47.忍耐強く物事に取り組むことができる	65.5%	64.4%	-1.1
【探究性に関わる自己認識】	48.自分を客観的に理解することができる	62.6%	66.1%	3.5
【協働性に関わる自己認識】	49.自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	52.4%	63.9%	<b>11.5</b>
【主体性に関わる学習活動】	5.自主的に調べ物や取材を行う	66.5%	69.4%	2.9
【協働性に関わる自己認識】	50.友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	48.1%	-	
【主体性に関わる自己認識】	51.自分にはよいところがあると思う	66.5%	76.1%	<b>9.6</b>
【主体性に関わる自己認識】	52.私は、自分自身に満足している	44.7%	55.6%	<b>10.9</b>
【主体性に関わる自己認識】	53.自分で計画を立てて活動することができる	61.7%	-	
【探究性に関わる自己認識】	54.一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	67.5%	67.2%	-0.3
【社会性に関わる自己認識】	55.18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	77.7%	72.2%	<b>-5.5</b>
【社会性に関わる自己認識】	56.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	52.4%	53.9%	1.5
【社会性に関わる自己認識】	57.私に関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない	34.5%	35.0%	0.5
【社会性に関わる自己認識】	58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	64.6%	61.7%	-2.9
【社会性に関わるウェルビーイング】	58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	64.6%	61.7%	-2.9
【社会性に関わる自己認識】	59.地域で起きている課題と世界で起きている課題は、お互いに関連しあっていると感じる	63.6%	-	
【主体性に関わる学習活動】	6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	35.0%	38.3%	3.3
【社会性に関わる自己認識】	60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	44.7%	47.8%	3.1
【社会性に関わるウェルビーイング】	60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	44.7%	47.8%	3.1
【探究性に関わる自己認識】	61.地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	64.1%	63.9%	-0.2
【社会性に関わる自己認識】	62.地域や社会で起きている問題やできごとに関心がある	58.3%	65.6%	<b>7.3</b>
【社会性に関わる自己認識】	63.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	37.9%	34.4%	-3.5
【社会性に関わる自己認識】	64.将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	69.4%	77.8%	<b>8.4</b>
【社会性に関わる自己認識】	65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	35.0%	24.4%	<b>-10.6</b>
【協働性に関わるウェルビーイング】	66.この学校に入ってよかったと思う	75.2%	77.8%	2.6
【探究性に関わる自己認識】	67.学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている	67.5%	66.1%	-1.4
【探究性に関わるウェルビーイング】	68.自分の将来について明るい希望を持っている	69.9%	71.1%	1.2
【社会性に関わる行動】	69.いま住んでいる地域の行事に参加した	44.7%	36.7%	<b>-8.0</b>
【協働性に関わる学習活動】	7.グループで協力しながら学習や調べものを行う	83.0%	91.1%	<b>8.1</b>
【社会性に関わる行動】	70.地域社会などでボランティア活動に参加した	33.5%	22.8%	<b>-10.7</b>
【主体性に関わる行動】	71.授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした	78.6%	71.7%	<b>-6.9</b>

【協働性に関わる行動】	72.自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	58.7%	58.3%	-0.4
【協働性に関わる行動】	73.友人などから、意見やアドバイスを求められた	63.6%	57.2%	<b>-6.4</b>
【主体性に関わる行動】	74.授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	53.9%	51.7%	-2.2
【探究性に関わる行動】	75.授業の内容について、「なぜそうなのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした	64.6%	58.3%	<b>-6.3</b>
【探究性に関わる行動】	76.公式やきまりを習う時、その根拠を理解するように、自分で考えたり調べたりした	57.3%	54.4%	-2.9
【社会性に関わる行動】	77.先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	64.1%	-	
【学習・その他】	78.国際社会の課題解決に貢献したい	38.8%	-	
【学習・その他】	79.まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	35.9%	-	
【協働性に関わる学習活動】	8.活動、学習内容について生徒同士で話し合う	81.6%	87.2%	<b>5.6</b>
【学習・その他】	80.客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることのできる	30.6%	-	
【主体性に関わるウェルビーイング】	81.今の生活全般の満足度	49.5%	65.0%	<b>15.5</b>
【主体性に関わるウェルビーイング】	82.普段のあなたの幸福度	49.0%	68.3%	<b>19.3</b>
【主体性に関わるウェルビーイング】	83.現在の日常生活に不安や心配事がない	53.4%	51.1%	-2.3
【協働性に関わるウェルビーイング】	84.学校の一員だと感じている	82.5%	83.3%	0.8
【協働性に関わるウェルビーイング】	85.大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	78.2%	73.9%	-4.3
【探究性に関わるウェルビーイング】	86.自分の将来についての見通し(将来こういう風でありたい)を持っている	75.7%	79.4%	3.7
【探究性に関わるウェルビーイング】	87.自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	78.6%	71.7%	<b>-6.9</b>
【社会性に関わるウェルビーイング】	88.この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	55.3%	51.7%	-3.6
【社会性に関わるウェルビーイング】	89.日本の将来は明るいと思う	47.1%	37.8%	<b>-9.3</b>
【協働性に関わる学習活動】	9.活動、学習内容について大人(教員や地域の大人)と話し合う	50.5%	-	
【学習・その他】	90.この学校を中学生におすすめできる	57.3%	57.8%	0.5



### 大人向けアンケート結果

昨年度は教員 20 名、地域の方 1 名だけの回答であったが、今年度は教員 28 名、地域の方が 18 名の回答数となっている。

	項目	教員			全体(大人)		
		今年 28 名	昨年 20 名	差	今年 46 名	昨年 21 名	差
5	失敗を恐れずに挑戦することができる	67.9	55.0	12.9	73.9	57.1	16.8
6	目標や当事者意識を持って挑戦することができる	78.6	60.0	18.6	71.7	61.9	9.8
7	自身の挑戦に、周囲を巻き込もうとしている	50.0	50.0	0.0	69.6	47.6	22.0
8	人と違うこと、異なった意見を尊重している	58.5	60.0	-1.5	60.9	61.9	-1.0
9	ありのままの個人を尊重している	89.2	70.0	19.2	69.6	71.4	-1.8
10	本音を気兼ねなく発言できる	39.2	30.0	9.2	69.6	33.4	36.3
11	地域に、将来のことや実現したいことを話し合える人がいる	42.8	50.0	-7.2	65.2	47.6	17.6
12	自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持っている	67.9	65.0	2.9	60.9	61.9	-1.0
13	挑戦する人に対して、応援することができる	85.7	75.0	10.7	63.0	76.2	-12.9
14	誰かが何かに挑戦しようと思ったとき、手を差し伸べている	82.2	80.0	2.2	73.9	81.0	-7.1
15	自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している	78.6	70.0	8.6	63.0	66.7	-3.7
16	立場や役割を超えて協働している	60.7	75.0	-14.3	65.2	76.2	-11.0
17	生徒に対してじっくりと話を聞き、考える手助けができています	78.5	75.0	3.5	67.4	76.2	-8.8
18	お互いに問いかけあう機会がある	60.8	60.0	0.8	65.2	61.9	3.3
19	生徒の関心に合わせて、機会を提供できている	78.6	75.0	3.6	80.4	76.2	4.2
20	地域の人や課題などにじかに触れる機会を持っている	82.2	80.0	2.2	56.6	76.2	-19.6
21	地域で生徒を育てるという意識を持っている	85.7	70.0	15.7	52.1	66.7	-14.6
22	子どもの自己決定を尊重できている	82.1	75.0	7.1	69.5	76.2	-6.7
25	この学校を中学生におすすめできる	71.5	45.0	26.5	60.8	47.6	13.2
26	この学校に関わってよかったと思う	75.0	60.0	15.0	50.0	61.9	-11.9
27	この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	46.4	50.0	-3.6	65.3	52.4	12.9
28	授業の質の向上につながっている(教員のみ)	57.2	55.0	2.2	57.2	55.0	2.2
29	自身の資質・能力の向上につながっている(教員のみ)	71.4	55.0	16.4			
30	学習意欲が高まった生徒がいる(教員のみ)	57.1	40.0	17.1			
31	業務負担感の軽減につながっている(教員のみ)	14.3	10.0	4.3			

- ・全体で見ると、「地域の人や課題などにじかに触れる機会を持っている」、「地域で生徒を育てるという意識を持っている」が昨年比で10ポイント以上低くなっている。
- ・教員向けでは、「地域に、将来のことや実現したいことを話し合える人がいる」が昨年度と比較して7.2ポイント低くなっているが、全体では17.6ポイント増加している。また、「立場や役割を超えて協働している」が昨年度と比較して14.3ポイント低くなっており、全体的にみても11.0%と低くなっている。さらに、「自身の資質・能力の向上につながっている」、「学習意欲が高まった生徒がいる」が10ポイント以上増加している。

(5) 地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)継続アンケート  
令和2年から4年度まで研究指定を受けていた文科省委託事業において、今年度も継続して生徒アンケートを実施した。

4：とてもそう思う。3：まあそう思う。  
2：あまりそうは思わない。1：全くそうは思わない。

<松浦に関する知識>

- ア 松浦の歴史や文化について、知っている。
- イ 松浦の自然について、知っている。
- ウ 松浦の産業やその特色などについて、知っている。
- エ 松浦が抱えている問題点や課題について、知っている。
- オ 地域の課題解決の方法を、考えたことがある。

<ふるさとや松浦に対する意識>

- カ 自分のふるさとや松浦のことが、好きである。
- キ 地域の課題を解決したり、地域を活性化したりする活動に、興味を持っている。
- ク 自分のふるさとや松浦を訪れる人やUターン者の移住者から多くのことを学んでみたい。
- ケ 地域課題の成果を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したい。(そう思ったことがある)

<進学希望先別の意識> 質問サ、質問シのうち当てはまるものを答えてください。第1希望のみ。

- コ 高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職したい。(長崎県内就職も考えている)
- サ 高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にUターンして就職したい。(Uターン先は松浦市ではなく「長崎県内」です。進学希望者は大学だけでなく、短大、専門学校等も含まれます。)
- シ 大学等へ進学する生徒のうち、地域活性化や教員養成系に関わる学部・学科へ進学したい。(大学等とは四年制大学及び短大です。学部・学科は地域系、経済系や社会学系、国際系及び教員養成、文学・語学系、保育等です)

<自分の学力の分析>

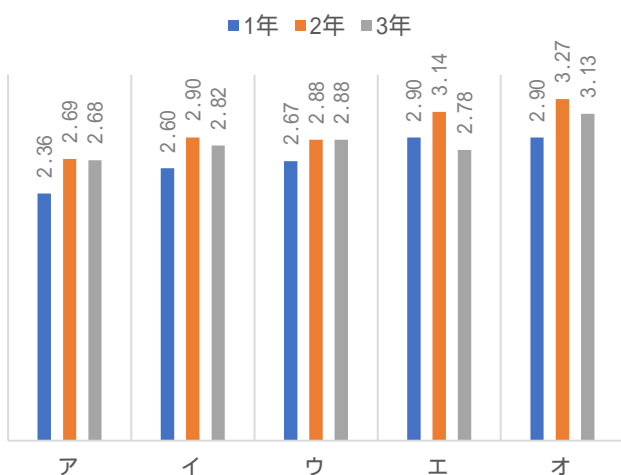
- ス 自分は、地域でのヒアリング・インタビュー・アンケートを実施する力がある。
- セ 自分は、フィールドワークの結果を分析する力がある。
- ソ 自分は、地域の課題を改善する方法を考える力がある。
- タ 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をまとめる力がある。
- チ 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をプレゼンテーションする力がある。
- ツ いろいろな人の意見に耳を傾け、対話をし、発信していくコミュニケーション力がある。
- テ ふるさとに関する課題を発見し、研究テーマを設定する力がある。
- ト 道理や筋道に従いながら考え、結論を導き、結論について分かりやすく説明する力がある。

## アンケート調査結果

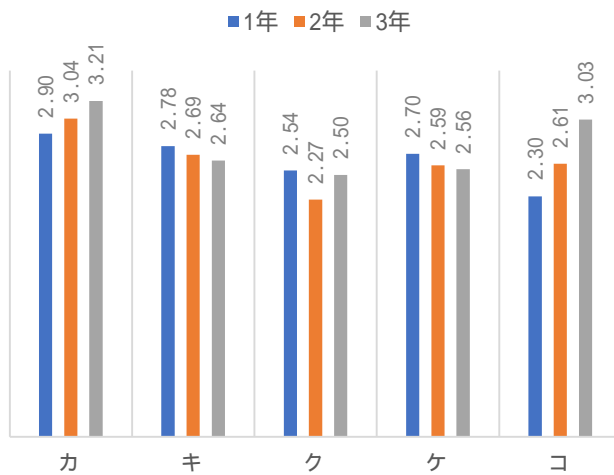
○今年度の状況

	対象	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
R5	1年	2.36	2.60	2.67	2.90	2.90	2.90	2.78	2.54	2.70	2.30	1.95	1.93	2.34	2.54	2.57	2.60	2.57	2.53	2.53	2.37
	2年	2.69	2.90	2.88	3.14	3.27	3.04	2.69	2.27	2.59	2.61	2.05	2.00	2.22	2.59	2.55	2.57	2.57	2.47	2.59	2.33
	3年	2.68	2.82	2.88	2.78	3.13	3.21	2.64	2.50	2.56	3.03	2.39	2.81	2.46	2.71	2.74	2.67	2.61	2.67	2.56	2.57
	全体	2.58	2.77	2.81	3.20	3.09	3.06	2.70	2.45	2.61	2.63	2.15	2.20	2.36	2.62	2.74	2.62	2.59	2.57	2.56	2.44
R4	1年	2.49	2.69	2.67	2.97	2.82	2.97	2.79	2.59	2.59	2.21	2.00	2.17	1.95	1.97	2.15	2.10	1.90	2.13	2.31	2.03
	2年	2.58	2.70	2.68	2.68	3.00	2.93	2.53	2.45	2.58	2.70	2.38	2.37	2.08	2.33	2.33	2.46	2.30	2.38	2.25	2.33
	3年	2.74	2.95	3.00	2.95	3.35	3.09	2.78	2.53	2.73	3.00	2.35	2.65	2.47	2.59	2.55	2.59	2.45	2.57	2.48	2.55
	全体	2.63	2.82	2.83	2.88	3.13	3.02	2.72	2.53	2.65	2.73	2.26	2.45	2.24	2.37	2.39	2.44	2.28	2.41	2.38	2.36
R3	1年	2.67	2.50	2.50	2.50	2.42	1.99	2.22	2.42	2.59	2.58	2.90	2.87	2.89	2.86	2.75	2.87	3.00	2.77	2.82	2.91
	2年	2.39	2.30	2.20	2.33	2.12	2.09	2.36	2.50	2.42	2.51	2.84	2.73	2.70	2.57	2.62	2.61	2.72	2.61	2.71	2.72
	3年	2.34	2.63	2.82	2.88	3.18	2.66	2.30	2.00	2.09	2.78	1.94	2.64	2.27	2.50	2.54	2.50	2.45	2.54	2.36	2.29
	全体	2.49	2.47	2.48	2.55	2.51	2.20	2.29	2.34	2.39	2.57	2.65	2.79	2.67	2.66	2.65	2.68	2.77	2.66	2.66	2.68
R2	1年	2.54	2.53	2.67	2.51	2.56	2.77	2.97	2.51	2.28	2.21	2.97	2.44	2.32	2.33	2.45	2.13	2.20	2.19	2.27	2.07
	2年	2.17	2.55	2.71	2.67	2.98	2.86	3.05	2.45	2.26	2.13	3.34	2.28	2.07	2.12	2.05	2.28	2.38	2.50	2.38	2.34
	3年	2.39	2.39	2.68	2.49	2.67	3.07	3.14	2.52	2.16	2.13	3.19	2.55	2.36	2.65	2.42	2.44	2.45	2.45	2.37	2.28
	全体	2.39	2.48	2.68	2.54	2.70	2.91	3.06	2.50	2.23	2.16	3.15	2.45	2.28	2.41	2.34	2.29	2.34	2.37	2.34	2.21

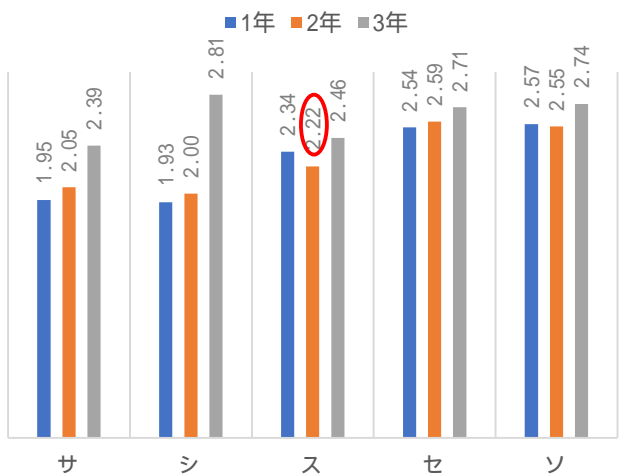
### R5 - 質問ア～オ



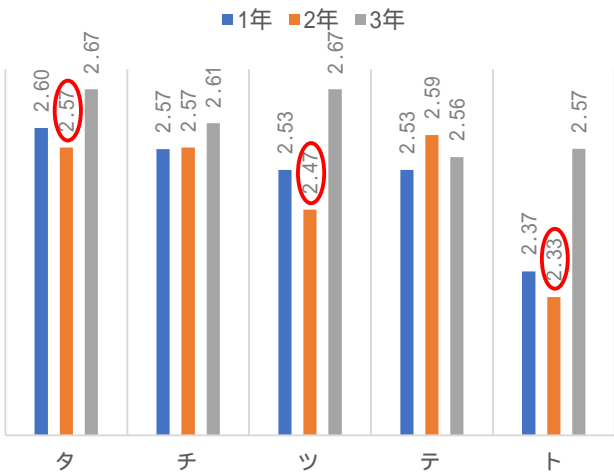
### R5 - 質問カ～コ



### R5 - 質問サ～ソ



### R5 - 質問タ～ト

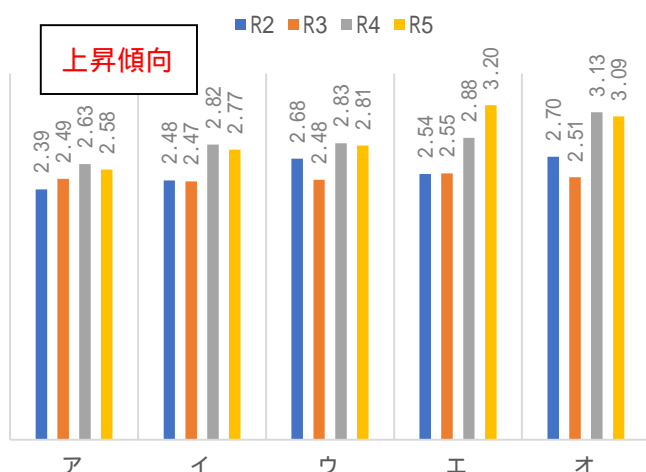


質問ア～オは、いずれの質問も2年生が最も高くなっている。質問コ「高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職したい。」と考えている生徒は、学年が上がるごとに高くなっている。質問ツ「いろいろな人の意見に耳を傾け、対話をし、発信していくコミュニケーション力がある。」と考える生徒および質問ト「道理や筋道に従いながら考え、結論を導き、結論について分かりやすく説明する力がある。」は3年生で高くなっている。また、2年生が質問ス～トの多くで低くなっている。2年生の探究活動における課題を分析することが、次年度の改善につながると考えている。一步踏み出す力が出せる仕掛けを考える必要がある。（「発表会」がゴールではなく、継続性をもった年間計画の見直しが必要。）

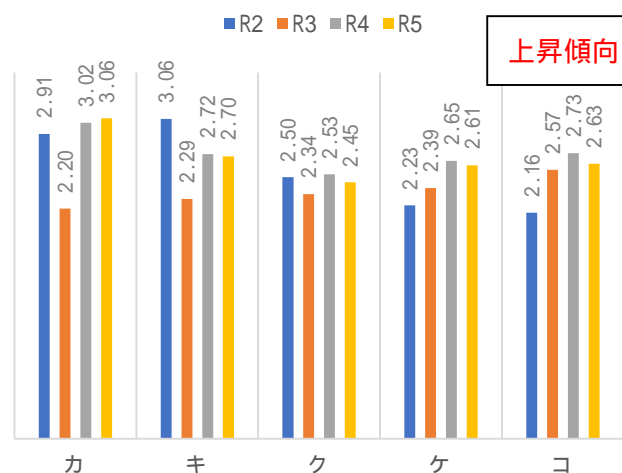
○過年度比較

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
R2	2.39	2.48	2.68	2.54	2.70	2.91	3.06	2.50	2.23	2.16	3.15	2.45	2.28	2.41	2.34	2.29	2.34	2.37	2.34	2.21
R3	2.49	2.47	2.48	2.55	2.51	2.20	2.29	2.34	2.39	2.57	2.65	2.79	2.67	2.66	2.65	2.68	2.77	2.66	2.66	2.68
R4	2.63	2.82	2.83	2.88	3.13	3.02	2.72	2.53	2.65	2.73	2.26	2.45	2.24	2.37	2.39	2.44	2.28	2.41	2.38	2.36
R5	2.58	2.77	2.81	3.20	3.09	3.06	2.70	2.45	2.61	2.63	2.15	2.20	2.36	2.62	2.74	2.62	2.59	2.57	2.56	2.44

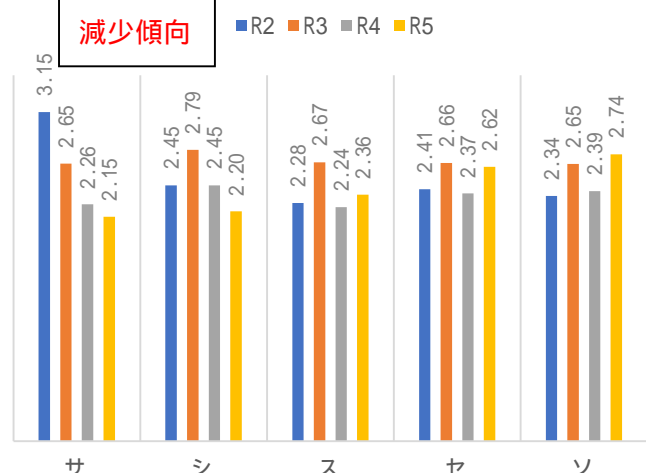
過年度比較 - 質問ア～オ



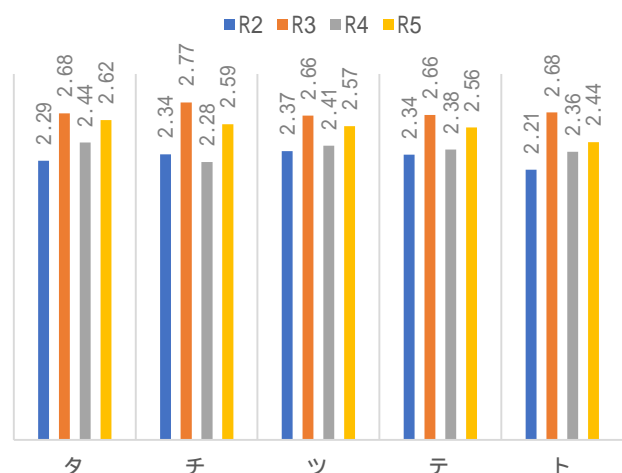
過年度比較 - 質問カ～コ



過年度比較 - 質問サ～ソ



過年度比較 - 質問タ～ト

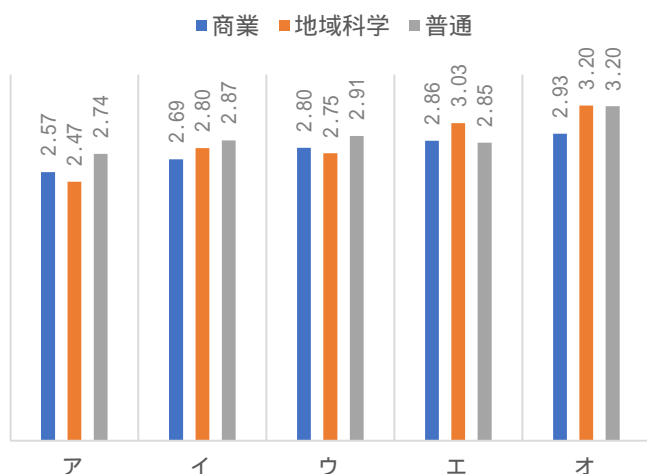


質問工「松浦が抱えている問題点や課題について、知っている。」と答える生徒は過去4年間で最も高いが、質問サ「高校卒業後に進学する生徒のうち、大学卒業後にUターンして就職したい。」と考える生徒は、年々減少している。

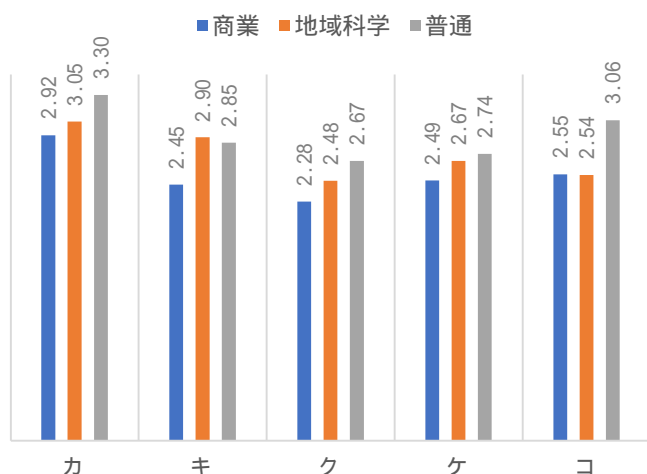
○学科別

R5		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
商業	全体	2.57	2.69	2.80	2.86	2.93	2.92	2.45	2.28	2.49	2.55	2.08	1.71	2.27	2.51	2.46	2.46	2.41	2.45	2.38	2.33
	3年	2.58	2.73	2.81	2.65	3.00	3.04	2.27	2.19	2.23	3.00	2.54	2.75	2.35	2.62	2.58	2.54	2.50	2.58	2.50	2.54
	2年	2.74	2.83	2.83	3.17	3.13	2.96	2.65	2.30	2.61	2.60	1.88	1.67	2.35	2.43	2.39	2.39	2.43	2.52	2.35	2.22
	1年	2.40	2.52	2.76	2.80	2.68	2.76	2.44	2.36	2.64	2.21	1.81	1.43	2.12	2.46	2.40	2.44	2.28	2.24	2.28	2.21
地域科学	全体	2.47	2.80	2.75	3.03	3.20	3.05	2.90	2.48	2.67	2.54	2.09	2.30	2.34	2.66	2.69	2.73	2.75	2.61	2.76	2.46
	2年	2.65	2.96	2.92	3.12	3.38	3.12	2.73	2.23	2.58	2.62	2.18	2.13	2.12	2.73	2.69	2.73	2.69	2.42	2.81	2.42
	1年	2.33	2.67	2.61	2.97	3.06	3.00	3.03	2.69	2.75	2.46	2.04	2.40	2.52	2.61	2.70	2.73	2.79	2.76	2.73	2.48
普通	3年	2.74	2.87	2.91	2.85	3.20	3.30	2.85	2.67	2.74	3.06	2.32	2.83	2.52	2.76	2.83	2.74	2.67	2.72	2.59	2.59

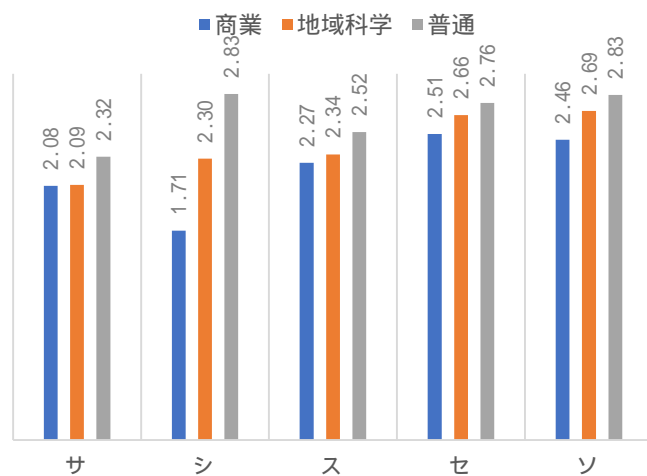
学科別 - 質問ア～オ



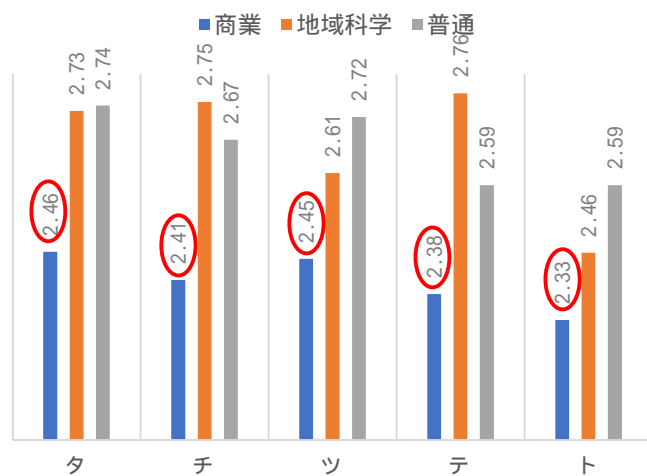
学科別 - 質問カ～コ



学科別 - 質問サ～ソ



学科別 - 質問タ～ト

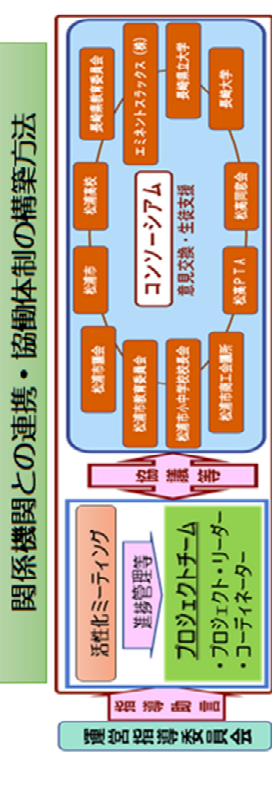


【長崎県立松浦高等学校】地域科学科（地域社会学科）（令和4年度設置）

**目的**  
 地域社会の未来を担うリーダーの育成  
 ～目指す資質・能力の涵養と地域活性化への貢献～

**目標**  
 I 生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望の実現  
 II 中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献  
 III 県内外の「地域高校」との連携等による学校活性化

**特色・魅力ある教育の概要**  
 地域社会から得られる様々な分野の知見を学ぶことにより教養を深め、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的な学びに重点的に取り組む  
 (研究テーマ例)  
 ○民語を活用し地域活性化～カッパの頭と松浦の経済に潤いを～  
 ○農業支援～長崎の廃れてしまった伝統野菜を復活させる～  
 ○廃校を活用して自然の家にする～松浦あじおの自然学園～



**令和5年度の目標**

**計画Ⅰ**  
 キャリアプランの作成状況を踏まえ、ルーブリック評価基準の検証・改善・各教育活動への反映

**計画Ⅱ**  
 前年度の検証等を踏まえ、支援体制の充実と生徒の探究活動への支援の検証・改善

**計画Ⅲ**  
 「地域高校」ネットワーク参加校における協働・活動の推進

**実施内容（取組状況）**

○自分たちの興味・関心に基づき課題を設定し、その解決策を発表した。  
 ○ルーブリックに基づいて、各活動の振り返りの際に自己評価を行った。  
 ○「松高ポートフォリオ」に、各活動の振り返りを記入した。

○長崎大学の支援のもと、地域素材を活用した授業づくりに取り組んだ。  
 ○発表会に地元の人や長崎県立大学の学生等を招き、多方面から助言をもらうことができた。  
 ○小・中学校でプロジェクトの成果を発表することができた。

○県内の高校教員や地域住民も巻き込んで外部講師を招聘した研修会（3回）を実施することができた。  
 ○立命館宇治中高的WWLコンソーシアムに参加し、情報交換を行った。  
 ○宮崎県立飯野高校主催のグローバルリーダーサミット等に、外部の研修会に生徒が参加した。

**令和5年度の成果（○）**

○各プロジェクトの進捗状況を確認しながら、ルーブリックによる自己評価を行うことができた。  
 ○大学との協働により、身に付けさせた資質・能力ごとにルーブリックを再構成することができた。

○7教科において地域素材を活用した授業づくりに取り組む、中学校との合同授業（地歴・社会）も行った。  
 ○大学生には複数回発表会に参加してもらったことができた。また、大学訪問を実施することができた。  
 ○生徒と地域リソースとをマッチングする「まっつうつうら高校応援団」を創設した。

○研修会を通じて、学校の魅力化や探究活動に関する情報共有ができた。  
 ○外部との交流によって、生徒の探究活動に対する意識やキャリア意識の高揚を図ることができた。

**令和5年度の課題（●）**

●各プロジェクトに対する教員（ファシリテーター）による支援の在り方についての共通理解が不十分である。そのため、生徒に自らの成長等を実感させることが十分にできなかった。

●課題設定や授業・活用・分析力等）の育成が不十分である。  
 ●「まっつうつうら高校応援団」の運用など、地域との連携の在り方、引き続き大学との連携の在り方、場限りとなる授業により、生徒の継続性のある関係構築する必要が有る。

●研修会後の教員間、参加者間での振り返りや意見交換の時間を十分に取れなかった。  
 ●本校を中心とした生徒交流会を実施することができなかった。  
 (令和6年12月に実施予定)

まっつナビ・プロジェクトは商業科の役割も大きいですが、質問タ〜トについては、商業科がかなり低くなっている。

成果概観図

## 1 - 2 次年度に向けて

### (1) 課題改善の方向性

生徒アンケートや高校魅力化アンケートの結果を踏まえ、現在年間計画の再検討を行っており、現時点では以下のとおりである。

特に、ここ数年の「まつナビ・プロジェクト」は、「探究性」が重要なポイントであるが、現状では資質・能力として身に付いていない状況にあるため、特に以下の点に留意している。

1年の前半では、地域のことについてインプットする機会を積極的に設けている。地域への興味・関心を高めるために、「MATSUURA 仕事図鑑」を継続して行う。テーマ設定に時間をかけ、自らの興味・関心だけに限らず、解決すべき社会的課題や科学的課題などからテーマを導き出せるような仕組みを取り入れる。生徒の発表に対して、教員はもちろんのこと外部（地域の方々、大学生等）から生徒の学びが深まる助言を得られるように工夫をする。特に学びの「振り返り」についての時間を確保する。

2年生の最終発表会（課題研究発表会）が「ゴール」ではなく、「進路実現（キャリア形成）」が最終的なゴールであると1年生の頃から意識づける。また、生徒だけでなく、教員も同様なマインドセットを図る。また、これを実現するために、今年度より実施している「進路別探究」をより具体的な計画へブラッシュアップを図ったり、生徒が各活動において時間をかけて振り返りを行えるような活動計画へ見直しを図ったりする。

### 令和6年度の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	資質・能力を身に付けさせるためのルーブリック評価規準やポートフォリオ活用に関する生徒への説明・運用開始（全体） 外部機関のアセスメント・レディネス調査実施（全体） 地域素材を活用した授業計画の作成 教科横断型授業、各教科の学習内容と探究活動とを往還する学習 職員研修（全体） ○進路別探究活動のテーマ設定（3年） 班別探究活動の本格化（2年） 中学校の活動の振り返り（1年）	ルーブリック・ポートフォリオの活用 学びアドバイザーとのルーブリックの確認 外部機関のアセスメント 管理機関との結果の共有 職員研修（ルーブリック等、外部機関のアセスメント、地域素材を活用した授業づくり） 大学及び管理機関からの指導・助言

5月	<p>○進路別探究活動の継続(～7月)(3年)</p> <p>班別探究活動の継続(2年)</p> <p>課題分析・解決能力の育成</p> <p>探究スキル(課題発見)育成講座、地域の魅力について知るための松浦未来講演会を実施(1年) 探究スキル、ふるさと貢献力</p>	<p>2年探究活動 コンソーシアムを通じて大学及び地域人材等に支援依頼</p> <p>○探究スキル育成講座 大学との連携、外部講師招聘</p> <p>松浦未来講演会 松浦市役所・まつうら高校応援団加盟各事業所との連携</p>
6月	<p>コンソーシアム会議・運営指導委員会(全体) 職員へのフィードバック</p> <p>班別探究活動の継続・中間発表準備(2年)</p> <p>課題分析・解決能力、プレゼン力</p> <p>「MATSUURA 仕事図鑑」(1年)</p> <p>ふるさと貢献力、必要なスキル育成</p>	<p>コンソーシアム会議・運営指導委員会</p> <p>研究開発及び事業推進体制への指導助言</p> <p>班別課題研究 長崎大学生や長崎県立大学生・外部審査委員・地域等の人材からのフィードバックによる研究</p> <p>○仕事図鑑 地域の人材活用</p>
7月	<p>「地域高校」との連携・協働研究ミーティング(全体)</p> <p>○進路別探究活動のまとめ(3年)</p> <p>中間発表会(2年)</p> <p>課題分析・解決能力・プレゼン力</p> <p>フィールドワーク(2年)及び仕事図鑑インタビュー(1年) ふるさと貢献力</p>	<p>「地域高校」との連携 外部機関及び連携高校とのミーティング内容の調整</p> <p>○中間報告会 大学生・外部審査委員・地域等の人材からのフィードバック</p> <p>フィールドワーク・仕事図鑑インタビューの支援 コンソーシアム等との連携</p>
8月	<p>個人・班別の取組のとりまとめ</p>	<p>○必要に応じて外部諸事業所と連携</p>
9月	<p>○進路別探究活動のまとめ(3年)</p> <p>フィールドワークの成果を生かした班別探究の継続(2年) 課題分析・解決能力</p> <p>仕事図鑑報告会(1年)</p> <p>資料作成力、プレゼン力</p>	<p>仕事図鑑報告会</p> <p>インタビュー対象者の招待</p>
10月	<p>○進路別課題研究論文作成(～12月)</p> <p>課題研究発表会準備(2年) 課題分析・解決力・プレゼン力</p> <p>研究テーマ設定及び研究活動構想(1年)</p> <p>自ら学び行動する力</p> <p>地域の伝統芸能見学(1年) ふるさと貢献力</p>	<p>プレ構想発表会(1年)</p> <p>大学生・地域人材からのフィードバック</p> <p>伝統芸能見学 見学先との調整</p>
11月	<p>課題探究発表会(2年)・発表会見学(1年)</p> <p>課題分析・解決能力、プレゼン力</p> <p>○東京フィールドワーク準備(2年)</p> <p>○研究活動班の始動(1年)</p>	<p>課題探究発表会 長崎大生や長崎県立大学生および外部審査委員への評価方法の説明</p> <p>東京フィールドワーク 訪問先との調整</p>



1 2 月	東京フィールドワーク(2年) 「地域高校」との連携ミーティング・ 生徒交流会(2年) 各研究活動班でのテーマ設定(1年) 課題分析力	○東京フィールドワーク 訪問先との調整 「地域高校」との交流会 連携校との調整、会場との調整 ○必要に応じて外部諸事業所と連携
1 月	1年間の取り組みを振り返るアンケートの実施・ポートフォリオの作成(全体) ○3年間の総括(3年) 課題探究のまとめ(2年) インターンシップ準備(2年) 班別研究構想発表会準備・フィールドワーク(1年)	生徒アンケート等 結果の分析及び管理機関との共有 インターンシップ 各事業所との調整 ○班別構想発表会準備・フィールドワーク 各事業所との連携
2 月	コンソーシアム会議・運営指導委員会(全体) インターンシップ準備(2年) 班別研究構想発表会準備・フィールドワーク(1年)	コンソーシアム会議・運営指導委員会アンケート等の分析結果に基づき、課題研究活動や事業の検証を行い、次年度の計画を立案 インターンシップ 各事業所との調整 ○班別研究構想発表会準備・フィールドワーク 各事業所との連携
3 月	インターンシップ(2年) フィールドワーク(1年)	インターンシップ 各事業所との調整 ○フィールドワーク 各事業所との連携

(2) 生徒の学びを深めるための次年度の取組(案)

計画 について:「まつナビ・プロジェクト」を含めたカリキュラムの充実

- ・外部講師による研修会・ワークショップ等を実施し、生徒同士が協議をする場面を多く取り入れ、グループでの課題解決に必要な対話のスキルや探究のスキル等を身に付けさせる。
- ・教育活動の取組について、目標・意義を明確にするために、評価方法(ループリック評価規準)の改善を図る。
- ・ファシリテーター(教員)のチェックリストを作成し、学びの分岐点等でチェックを行い、生徒の活動に反映させていく。
- ・生徒の興味・関心や社会的課題や科学的課題などに基づいたテーマを設定し、「自分ごと」として学びを進めるようにファシリテートしていく。
- ・学校設定科目「まつナビ・プロジェクト」、「総合的な探究の時間」および「教科」とのつながりを意識した、「地域素材」を利活用する授業を計画、実践していく。

計画 について：コンソーシアムを中心とした外部機関との連携

- ・外部機関との積極的な連携により生徒の学びの充実を図る（「まつうら高校応援団」とのさらなる協働の充実）。特に、研究活動や発表会における教員・地域人材、大学生等による伴走の在り方を検討する。
- ・中学校や大学との連携の中で、生徒の主体的な取組を促進し、特に中学校への生徒募集も含めた広報活動にもつなげていく。

計画 について：地域に根差した高等学校との連携

- ・他校と連携を進め、教員間の交流を進めるとともに、松浦での生徒間交流を活発に行う。次年度は12月26日に、猶興館、佐世保南、宇久、松浦との交流会を実施予定。これにより、生徒の主体的・対話的な学びの充実及びを図る。また、NPO法人カタリバ主催の小規模校サミットにも参加。
- ・外部コンテストや校外交流も積極的に行う。新たに、立命館宇治（WWL拠点校2019年～）探究発表会に参加予定 等。



松高キャラクター  
「まつドリー」

まつナビ・プロジェクト

検索



## 長崎県立松浦高等学校

〒859-4501 松浦市志佐町浦免738-1



0956-72-0141 (事務室)

0956 72-0142 (職員室)

<https://www.news.ed.jp/matsuura-h/>